

A+Bが90%以上はa

A+Bが90%以上はa

※判定結果は3段階(a:十分達成 b:ほぼ達成 c:工夫・改善が必要)

Table with 10 columns: 評価項目, 今年度の重点目標, 具体的取組, 年度当初の現状, 評価の観点, 実現状況の達成度判断基準, 中間結果, 備考, 中間評価, 後期に向けての対策, 最終結果, 最終評価, 成果と課題, 必要と思われる対策. The table contains detailed evaluation data for various school activities and student outcomes.

学校関係者評価委員会の評価

評価結果を踏まえた今後の対策

・3年生の様子を見ると、全体的に落ち着いた雰囲気になっている。
・家庭学習を定着化させるには、個に応じた課題(宿題)を出すことが必要である。
・授業がわからない生徒への対応の工夫が必要である。
・不登校、不登校気味の生徒を登校させるには、橋渡しとなる生徒の存在が必要である。
・今の生徒は思っている以上に将来のことを考えている生徒がいる。先を考えた進路指導を行ってほしい。
・4月よりはあいさつをしっかりできるようになってきた。

・今後も学校全体で生徒の変化を察知していきたい。
・宿題の必要性の指導や宿題をやった後の達成感を味わうような工夫をしていく。
・つまづきの原因をもっと分析し、わからない生徒へスモールステップを交えた指導をしていきたい。
・未然防止の面を充実させたい。機会を逃さない個別相談や教師全員が協力した家庭訪問をする必要がある。
・高校卒業後の進路を考えている生徒は意外といふ。1年生では、高校卒業後の進路について肯定的にとらええる生徒の割合が後半で増えた。体験活動や卒業生との交流などを取り入れ、キャリア教育の充実を図る。
・各クラス1週間単位で朝のあいさつ運動を行っている。挨拶は挨拶を受けた人の心も元気にするものだと気付かせる指導も行っていい。